



オジちゃんたち  
トシいくつ?

# クルマが目立つより オレらが目立とう!!

## 恐怖の人間チューン

たしかにチューニングカーは目立つ。だけどそれはクルマが目立っているわけで、乗ってるオレらはまーっと目立っておらん。けしからんことだ。アクセルあおって、みんなが振り返るってえのはナンセンス。どうせなら、オレら自身が目立つのが真のチューニングではないだろうか?

「知的チューニングのススめ」  
埼玉県 目立鋼男クンの主張

「チューニングとは何ぞや?」と聞かれたら、大方の人は「目立つこと」と答えるでしょう。しかしですネエ、それは、クルマが目立つだけであって、どーしても、ドライバには世間の視線は及びません。

そこで提案が御座居ます。目立ちたいならクルマではなく、人間、つまり自分自身が目立ってしまおうではないでしょうか。要はクルマの力を借りずして、本質で勝負しませうということなのです。ハイ。

「どーやればいんだよ、オレなんて何やってもダメだし、そんなの出来っこネーヨ」と思うでしょうが、ところがオットドッコイシヨ、手段はあるのです。なにかって? 答えはひとつ、人の世、生き血をススリ、ではなく、クルマと同じように自分自身をチューニングしちゃいましょう、ちゅーことなのです。

それではあまりにもツレません、どうせ一度の人生、常に人の視線を浴び死ぬまで目立とうではありませんか? 私はカノのように思っています。

埼玉県代表 目立鋼男クンでした。

つーわけでもって、この提案を受けたチューニングショップ「Autoマキシマム」では、店長以下番頭と美人秘書の計3人が、決起したのである。

どーなってもオフ知らねえ……。

★クルマが目立つのもケッコーだけど、自分自身が目立たなくては……

